

# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ガバナー月信  
2010.12.01 Vol.6



地域を育み、大陸をつなぐ

Building Communities -- Bridging Continents

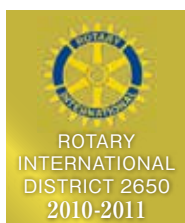
## 余呉湖と賤ヶ岳 (滋賀県長浜市)

琵琶湖の北部、余呉湖を望む賤ヶ岳は、  
かつて豊臣秀吉と柴田勝家が雌雄を決した古戦場です。  
戦死者で湖が赤く染まったとも言われたほどの激戦だったとか。  
この戦を機に、秀吉は天下人への道筋を確固たるものにしました。  
当時の激しさとは対照的に、静寂がこの地を包んでいます。  
ロープウェーが整備され、比較的訪れやすい場所になりました。  
頂上から見えたかつての天下の夢は、一体どのような景色だったのでしょうか。

## Contents

ガバナーメッセージ	P 2
ガバナー補佐メッセージ	P 3
IM2組開催報告	P 4
地区委員長メッセージ	P 5
ポリオフリー堅持10周年 記念式典報告	P 6
障害者雇用シンポジウム 報告	P 7
10月入退会リスト 出席率表	P 8
10月入退会リスト 地区大会参加のお願い	P 8

第2650地区2010-11年度スローガン  
「ロータリーを良く学び、  
変化を知り、  
忘れたことを思い出そう」





今回のIM (Intercity Meeting) は、8月21日の第3組から始まり、9月11日の第1組、9月25日の第5組、10月16日の第2組と進み、11月13日の第4組で終わりました。その概要は、それぞれの組の実行委員会がこの「ガバナー月信」で報告しておられますが、私なりに感じたことを述べさせていただきます。

まず8月21日、第3組IMは、京都西南ロータリークラブがホストクラブとなり、「ロータリーを解剖する」というユニークなテーマのもとに行われました。12名の各クラブ代表が「ロータリアンの質は向上していると思うか」など、4つのテーマから1つを選んで5分間のスピーチをした後、これらの代表に4名のガバナー補佐も加わってディスカッションを展開したのですが、これらのスピーチ・ディスカッションを通じて私が感じたのは、皆がロータリーを愛し、ロータリーをこれからどのように発展させていくかを真剣に考えているということでした。このような熱心なロータリアンが多いことをたいへん心強く思いました。

9月11日の第1組IMは、草津ロータリークラブがホストクラブとなって行われました。NPO法人地球のステージ代表理事の桑山法彦氏が映像と音楽と語りで訴えた国際理解講演「地球のステージ～国境なき大地～」は、大きな感動を与えました。氏の、世界の人々のために続ける愛情に満ちた活動は、ロータリーの国際奉仕に通ずるものがあると感じました。

9月25日の第5組IMは、福井あじさいロータリークラブがホストクラブとなって行われました。松島トモ子氏が「多くの人達との出逢いの中で」と題して、ご自身の生い立ち、アフリカで2度にわたってライオンに襲われたこと、車いすダンスへの取り組みなどを話されました。このようなすてきな人が我々と同じロータリアンであることに喜びを感じました。

10月16日の第2組IMは、舞鶴ロータリークラブがホストクラブとなって行われました。京都府立大学准教授・宗田好史氏の基調講演「京都北部の活性化—生き残りをかけて」は、京都北部のかかえる観光、農業の厳しさを訴えるものでした。また、7クラブの代表によるフォーラムでは、京都北部の活性化に向けての提案などが話し合われました。ロータリアンとしても、京都北部の活性化に向けて積極的に活動することが必要であると痛感しました。

11月13日の第4組IMは、奈良東ロータリークラブがホストクラブとなって行われました。奈良国立博物館学芸部長・西山厚氏の「奈良時代に学ぶ」と題する記念講演は、奈良時代の良さが今に継承されているというものでした。また、ロータリーフォーラムは、奈良県のことが紹介され、3つの答えの中から正解を選ぶ問題が16問という、楽しいクイズ形式のものでした。郷土の歴史を知り、郷土の現状を知ることが、ロータリアンとして活動するうえでいかに大切であるかを学びました。

国際ロータリー 第2650地区 ガバナー **栗田 幸雄**

## おかげさまで……

奈良第2地区ガバナー補佐 好川 嘉則 (よしかわ よしのり) 檀原RC



雨にも負けず 風にも負けず 雪にもなつの暑さにも負けぬ 丈夫な体を持ち 慾はなく決して嘖(怒)らず いつも静かに笑ってる 一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ あらゆることを自分を勘定に入れずによく見聞きし分かり そして忘れず 野原の松の林の陰の 小さな萱ぶきの小屋にいて 東に病気の子供あれば 行って看病してやり 西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を負い 南に死にそうな人あれば 行ってこわがらなくてもいいといい 北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろといい 日照りの時は涙を流し 寒さの夏はおろおろ歩き みんなにでくのぼーと呼ばれ 褒められもせず 苦にもされず そういうものに わたしは なりたい

“雨にも負けず 風にも負けず”で始まる宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」の全文です。

日本人ならおなじみの文章です。全文に触れる機会はあまりないかも知れませんが、改めて読んで、日本人特有の美德から来ている奥深さや謙虚さが感じられます。命の尊さや生きることへの希望や夢などが歌われたこの詩には、日本中の人々に、これほどまでに愛される理由があるのだと思います。彼の紡ぎ出すあらゆる言葉の一語一語に心の優しさと謙虚さがあり、それが日本人の持っている最も美しい感性を描いた結晶の詩となっているのではないのでしょうか。懐かしいあの頃、本や教科書などで一度は読んだことがあるとは思いますが、昔を思い出して是非、もう一度声に出して読んでみるのも良いのではと思います。

あるリサーチの報告によりますと、8割以上の人が“日本人の美德”に「礼儀正しさ」や「謙虚さ」を挙げ、その5割以上がもともと持っていた日本人独特の品格や道徳観が失われつつあるという危機感を抱いているという結果があります。

喜怒哀楽、プライドの感じ方は、どの人でも同じだと思いますが、国柄や習慣によって、表現が大いに違うものです。大陸続きの国やアメリカのような多民族と違って、日本は島国で侵略の経験もなく、歴史を重ねてきました。お互いに、長所や美点は知っているものと、暗黙の確信をもっていると言えます。口先で「大したことはありません」と謙遜。対して相手も「いえ、いえご謙遜を」とし、会話の中で「おかげさまで……」と言うことが奥ゆかしいとされてきました。

戦後、日本人は類にまれな勤勉さ、技術力を発揮して経済の復興と繁栄に遭遇し、貧しかった国も物質的には豊かな国になり欧米と肩を並べました。しかしその経済的繁栄とは裏腹にグローバル化が進むにつれ、伝統的な日本人の考え方や心の豊かさ、礼節、思いやり、感謝、奉仕、先人を敬う心……の多くを失ったような気がします。今、日本は難局に遭遇し、人々の幸福感は高くなく、凶悪な犯罪、非人道的な事件が多発しています。この原因の一つは心の豊かさが欠落したことによる気がしてなりません。日本人独特の美德はどこに行ってしまったのでしょうか。私達は、未来に向けて心の豊かさを取り戻すための方策、教育、社会の仕組みなどを真剣に考えなければと思います。

新RI長期計画についてとして、南園義一元国際ロータリー理事から、その内容が報告されています。優先項目が幾つか挙げられていますが、その一つに「高潔性」という語が挙げられていました。「高潔性」とは精神が気高くて汚れないことであります。この高潔性こそ、今のロータリーに一番欠けているものであり、忘れ去られようとしているものではないのでしょうか。高潔性を育み、推進していくことが、衰退したロータリーの再建に最も必要なものであると思われます。ありがとうございました。

## ロータリアン同志で語り合おう！ 「京都北部の活性化を目指して」

IM実行委員長 西村 彌 (にしむら ひさし) 舞鶴RC



第2650地区第2組IMを舞鶴RCがホストとして10月16日(土)舞鶴商工観光センターで開催しました。昨年10月にホスト担当クラブに決定しましたので第2組のゼネラルリーダーを平井義久パストガバナーにお願い申し上げたところ快くお引き受け頂き、テーマに関しても昨今の京都北部の厳しい現状を踏まえ、ロータリーとして地域の活性化に貢献する方法等相談申し上げたところ「活性化にはロータリーの職業奉仕その真の実践こそが糸口になるのではないか、そのことについてロータリアン同志が忌憚のない意見交換をするのがよいのではないか」などいろいろと御指導頂きテーマを「京都北部の活性化を目指して」ということで御案内をしました。

当日はご来賓の方々、第2組京都北部クラブの会員の皆様を含め202名の方が参加頂きました。栗田ガバナー一点鐘のもと開会し、舞鶴市長、京都府中丹広域振興局長様方の祝辞、栗田ガバナー、平井ゼネラルリーダーの挨拶等 又地区大会について実行委員長、地区財団

については地区ポリオプラス、WCS委員長の説明も行われ開会式を済ませ、次いで基調講演を京都北部の実情にお詳しい京都府立大学準教授宗田好史先生に問題提起をかね「京都北部の活性化生き残りをかけて」というテーマで京都北部をいろんな角度から分析した数値資料を基に示唆に富んだ話しを聞かせて頂きました。フォーラムは当地区7クラブから各一名ずつパネリストを出して貰いその方々に「地域の活性化のために何をすべきか」を発表して頂き会場からもいろいろと意見を聞き平井ゼネラルリーダーのもと地域の活性化を思う熱気あふれるパネルディスカッションが行われました。そして最後に平井ゼネラルリーダーの所感、栗田ガバナーのお言葉、次期ホストクラブ(綾部RC)の決定発表で閉会としました。その後場所を変えて、栗田ガバナー、平井ゼネラルリーダー、地区役員の方々、第2組の会員の方々が一堂に集まり懇親会を行いました。パネルディスカッションの熱気とは異なった雰囲気のもとで楽しい有意義な親睦を深める一刻を過ごし第2組のIMがRIテーマ「地域を育む」にも沿った形で成功裡に終ることが出来ましたことを御礼申し上げ、地区の活動方針ロータリークラブが地域ニーズのある独創的な奉仕活動を行うことの必要性を再確認できたことを御報告申し上げます。



## 96クラブの素晴らしい社会奉仕事業

地区社会奉仕委員会 委員長 池田 利一 (いけだ としかず) 桜井RC



ロータリー奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みからなるもの、と述べられています。地区社会奉仕委員会では、年2回96クラブの社会奉仕委員長に参集頂き、8~10クラブの事業の事例発表会を開催しています。毎回発表される各クラブの事例発表は素晴らしく心に響き、感動する事業が数多くあり、その多くはその年度のガバナー賞を受賞されています。社会奉仕の事例は大きく分けて4つに分かれています。人間尊重、地域発展、環境保全、協同奉仕であります。第1に人間尊重では、社会的弱者への支援、保健、長寿、健康への支援、子育て支援、社会治安の向上、才能ある人の発掘支援、文化活動を通じての心豊かな人を作る運動、災害に備える支援であります。第2の地域発展では産業育成、観光の街づくりや街並み整備であります。第3の環境保全では、山、森林の育成、河川の清掃、魚や蜚の棲む清流づくり、街路の清掃、歩行者天国、クリーンエネルギーの利用等があります。第4の協同奉仕ではインターアクト、ロータリーアクトとの協同奉仕、街頭キャンペーンへの参加、国際交流であります。以上の事例を参考に、96クラブの社会奉仕事業は展開されてきました。しかし、現在の社会情勢は大きな変化をしています。国内では少子高齢化や政治不安に伴う社会保障、不況に伴う生活不安等々、又世界では危機的な生活を送っている何百万人もの児童、600万にも及ぶ障害者、何百万人もの人々が死亡しているエイズやマラリヤ、発展途上国における人口問題や貧困と飢餓の現状があります。我々ロータリアンには、行政や民間団体が活動されているものの地元地域社会において引き受けられるやりがいのある機会があります。

ロータリー情報マニュアルの中に

- 1). 地元内のそれぞれの地域の特定の相対的状況を総合的に調査、分析し、地域社会のニーズを確認する。
- 2). 地域社会のニーズを見出すために個人的また職業上の立場を生かしてクラブの区域内を探り、社会奉仕委員会の調査、

分析を補足、強化するよう個々のクラブ会員に勧める。

- 3). 他の地域団体との会合を、所定の方針に合致して行うことができる場合、そのような会議を開き、話し合いと意見の交換をする。
- 4). 地域社会のニーズに対し積極的に関心を示し、これに精通していることや、財政的貢献ばかりでなく「実際に汗を流すような」社会奉仕プロジェクトを開始、推進する事を奨励する。

と書かれています。各クラブの社会奉仕委員会内だけでなくクラブ全体として又全員で社会奉仕活動への参加が、何よりも大切だと考える次第であります。

社会奉仕は、ロータリアン一人一人が超我の奉仕を実証する機会であります。地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕する事はすべてのロータリアン個人にとってもまた、RCにとっても献身に値することであり、社会的責務でもあると1992年の声明の決議92-286で述べられています。2011年(平成23年)1月22日、京都テルサで職業奉仕委員会と社会奉仕委員会で合同委員会を開催いたします。96クラブからの素晴らしい事例発表の会合になりますよう、よろしく御願ひ申し上げます。

次に、本年度から新しく設けられた「まちづくり基金」についてであります。2年前の川端パストガバナー年度に500万のまちづくり基金が設立され本年度栗田ガバナー年度から地区社会奉仕委員会が担当する事になりました。地区内96クラブの地域の中でまちづくりに貢献されている事業に対して、その事業に対し継続されていく援助資金として本年度100万予算計上しております。応募対象期間は平成22年2月から平成23年1月迄とし、応募締切は平成23年2月15日で最優秀1クラブ、優秀クラブ2クラブの合計3クラブを地区社会奉仕委員会で選考し、地区大会で表彰させて頂きたく、各クラブからのたくさんの応募をお待ちしております。

最後に栗田ガバナーの「ロータリーを良く学び、変化を知り、忘れたことを思い出そう」を心にとめ、残り7ヶ月を地区社会奉仕委員会にご協力賜りますようお願い申し上げます。

## ～WHO西太平洋地区ポリオ根絶認定委員会及び ポリオフリー堅持10周年記念式典での感謝状の贈呈～

地区副幹事長 原 賢治 (はら けんじ)



よりRI2650地区のポリオワクチン投与を含めた世界社会奉仕活動に対し国際的に高い評価を受け、この素晴らしい業績に対しWHOより深謝とともに当地区関係者に感謝状が贈呈されました。

2000年10月西太平洋地区のポリオ撲滅が世界中に宣言された「ポリオ根絶京都会議」から10年が経ち、2010年10月29日マニラにて第16回ポリオ根絶認定委員会と同時にポリオフリー堅持10周年式典が開催されました。

国際ロータリー第2650地区より宮崎パストガバナーをはじめ貴志委員長以下12名の関係者が出席され、1995年

この栄誉と喜びを第2650地区の会員の皆様にご報告するとともに、世界にポリオ根絶が宣言されるまで今後もポリオ根絶プログラム活動を継続し支援していただきますようお願い申し上げます。

## 障害者雇用シンポジウム開く 330人が参加【京都西北RC】

会長 森定 秀夫 (もりさだ ひでお) 京都西北RC

京都西北RCは10月23日、京都市下京区のメルパルク京都で、創立35周年記念事業として、RI第2650地区の補助受け、障害者の雇用について考えるシンポジウム「障害者雇用に取り組むために」を開きました。当日はロータリアンだけでなく一般の人たちの関心も高く、330人が参加、立ち見も出るほど盛況でした。

シンポジウムは障害者の企業雇用を進めた第一人者といわれる日本理化学工業株式会社の大山泰弘会長の基調講演「知的障害者に教えられた“究極の幸”」ではじまり、第二部では障害者雇用に対する思い、雇用を検討中の企業に対するメッセージを京都、大阪、神戸の企業の代表者の方々からいただきました。第三部では現在企業で働いている障害者が意見発表を行い参加者

により深い理解を求めました。

この日参加した人からは「障害者雇用について障害者もまじえながらいろいろ考えさせられる素晴らしいシンポジウムだった。今後も続けて行ってほしい」との声があがっていました。





## 10月新入会員

クラブ名	氏名	職業分類
京都	渋谷 康一郎	中央銀行
京都	小森 秀樹	損害保険
京都	土井 伸宏	地方銀行
京都	飯島 義裕	劇場
京都	福山 隆夫	不動産賃貸
京都伏見	土井 孝博	建築工事
京都東山	岡武 和暁	損害保険
京都東山	郡 正樹	広告業
京都南	伊藤 英彰	西洋料理
京都南	今村 晴行	靴クリーム製造
京都南	山口 盛夫	精密機器製造
京都南	小林 正幸	工業銀行
京都南	東 憲昭	観光デパート
京都南	畑中 誠司	料理旅館
京都南	野田 英孝	生命保険
京都モーニング	川上 孝司	住宅関連用品販売
京都洛北	加藤 大貴	造園
京都洛北	石高 信道	不動産管理
京都洛北	長谷川 克明	日本料理
京都嵯峨野	松川 恵一	商業デザイン
京都西南	松井 始	建築・設備

## 10月退会会員

クラブ名	氏名	職業分類
福井	石丸 敦士	生命保険
福井東	宮越 洋二	医師
福井東	小畑 伝	地方行政
福井北	友廣 和彦	都市ホテル
福井南	山田 健治	保育園
武生	宮前 貴司	ファーストフード
武生	橋本 幸恵	生命保険
大津	和田野 善明	電力
大津	藤井 忠光	ホテル
八日市南	下田 政寿	電子部品製造
奈良西	岩永 泰三	生命保険業

クラブ名	氏名
京都乙訓	中井 實
京都洛中	永沼 猷彦
宮津	今井 英之
宮津	尾上 康則
彦根南	西村 昌信
大津	稲毛 隆文
大津中央	奥村 清雄
奈良西	山田 哲之
桜井	松田 宣弘
桜井	杉本 幸弘
桜井	東野 源一
桜井	藤井 正美

## 10月逝去会員

謹んでお悔やみ申し上げます

クラブ名	氏名	日付・年齢
宇治	野村 善彦様	10月1日ご逝去 享年74歳
長浜	枚本 仙太郎様	10月17日ご逝去 享年54歳
京都西山 (名誉会員)	安井 清様	10月30日ご逝去 享年84歳

## 地区大会参加のお願い

2010～2011年度地区大会は、平成23年4月16日(土)・4月17日(日)の2日間に亘り福井商工会議所・福井県産業会館で開催いたします。今年度は、栗田幸雄ガバナーの意向で、福井らしい企画で皆様をお迎えし、参加された皆様に「来てよかった」とご満足いただける大会にしたいと、主幹させていただく福井北ロータリークラブ一同準備に励んでおります。ご案内のリーフレットも11月初旬に申込書と一緒に各クラブに送らせて頂きました。

記念講演は、福井出身で「福井ふるさと大使」でもありますわが国の代表的な米国研究者として、50年に渉って日米問題を取材し発信してきた、ジャーナリスト松尾文雄氏が、「大国化した中国と日米関係」についてお話し致します。現在大きく変化している東アジア情勢の中で日米同盟の重要性と今後の行方を探ります。

特別講演では、大会テーマであります「ロータリーを良く学ぼう」に関しまして千玄室 元R I 理事様をお願い致します。

また、ご家族様のエクスカッションとしては、今注目されています国の特別史跡「朝倉氏遺跡」、また大変内容が充実している「福井県立恐竜博物館」、をご覧ください予定です。両方とも参加者が大きく増加しています。

今回本会議の前のお食事は越前の味覚をゆっくりお楽しみ頂きます。

まだ、先のことですが、来年の4月17日(日)のスケジュールを今からご予約されまして、どうぞ一人でも多くの方のご登録を頂きますようお願いいたします。

井上 彪 地区大会実行委員長



Kyoto/Nara/Fukui/Shiga

R.I.D.2650

2010-2011

国際ロータリー第2650地区

2010-2011年度 ガバナー 栗田幸雄

ガバナー事務所 ● 〒600-8216

京都市下京区塩小路通烏丸西入東塩小路町614番地 新京都センタービル5階520号室  
TEL: 075-353-2650 FAX: 075-343-2651 Email: gov2010-11@rid2650.gr.jp